

## 新潟県中越地震発生 その時あなたは

- ① 氏 名：新関 敦生
- ② 年齢・住所：70歳 新潟市
- ③ 遭遇場所：新潟市内
- ④ 震 度 他：私は地震時には必ず、P波とS波との時間差から、震源までの距離を暗算するクセがある。  
今回は、地震動の前に、地鳴りがあり、その時は歩いていたが、不思議に思って足を止めた。  
その後に地震動が来た。  
激しい上下動であった。  
駐車場にある車も、上下にはねあがった。  
直下型に近いと思った。
- ⑤ 行 動 他：玄関の直前で出来事だったので、屋内に入るのをやめた。  
激しい震動なので、上の階の窓ガラス等が破損して落下すると危険なので、建物から離れた。  
周辺では目立った被害はなかったが、余震も本震におとらずはげしいものだった。

- ① 氏 名：野崎 保
- ② 年齢・住所：58歳 新潟市山ニツ
- ③ 地震遭遇箇所：新潟市沼垂
- ④ 地震の程度：家が大きくかつ長く揺れたが、ものが落ちたり倒れるということはない。知人の女性のお宅で男性3人女性1人で会話中だった。私と男性2人（30歳後半と40歳前半）は特別な行動はとらなかったが、女性（40歳前半）は、とっさに座布団を頭から被って防御体制を取った。
- ⑤私のとった行動・周辺状況：

地震時には時計を見てP波とS波の到達時間差をチェックすることにしている。この時はその区別ができなかったので、震源が遠くないだろうことと、軟弱地盤の沼垂がこの程度の揺れならば新潟市内はほとんど問題はないだろうことをお話した。家族の方がすぐにテレビをつけられ、およそのことを知った。その後すぐに車で自宅に向かった。運転中になにか異常を感じたが電柱の揺れで初めて余震とわかった。自宅に戻って夕食を準備中の妻と会話中に2番目の余震があった。妻は普段から高血圧であるが、度重なる揺れで血圧が急上昇し、その場にしゃがみ込んでしまった。その後、新潟大学の山岸宏光教授に電話をし、日本応用地質学会北陸支部として翌朝から緊急調査に入ること相談をした。

- ① 氏 名：戸田 和也  
② 年齢・住所：46歳、新潟市

地震発生時は、NST新社屋オープンイベントで、応募した愛犬の写真を妻と見ていた。社屋が大きく揺らぎ、照明が今にも落ちそうなほど振れ、入場者の悲鳴が響く。二度目の地震で、イベントは早々に中止となった。震度は4位か？

家に帰ると、震源は実家のある小千谷だという。急いで電話をするが通じず、夜中に姪から、全員無事の携帯メールが入るまで、まんじりともしない時間を経験する。

翌朝、ネットで通行止めではない道路を調べて、実家へ向う。予想に反して渋滞はなく、2時間ほどで実家に着いた。途中でみた道路陥没や液状化が痛々しい。

母や姉家族は、小千谷小体育館に避難しており、無事を確認してほっとする。克雪式のためか、実家も一部損壊程度で済み、一安心した。それにしても余震が多い。

地震発生時の状況を、母は「この世の地獄を味わった」と言っていたが、姉が助けに来るまで、手すりに掴まって動けなかったそうである。姉家族も、本棚が崩れてドアが開かなくなり、隣家に助けを求めたそうだ。全く酷い目にあったものである。

このような大規模の地震が、小千谷周辺で発生するなんて... 我が家の減災対策を、もう一度見直さなくては。

① 氏

名：関根 正道

地震発生時、私は女房の実家において、そろそろおいとましようかと言うところでした。新潟市内は震度5弱。初期微動の時点で、これはでかい！と感じ、実際、次の瞬間ものすごい揺れに遭ったわけですが、あの時間では人間何も出来ませんね。女房だけが火の始末など大声で指示を飛ばしていました。

私は職場が新発田で震度5以上だと自主出勤なのですが、テレビの震度情報は下越地方震度5弱（新潟市で代表）だけで、新発田の情報がなかなか出なかったので（最終的には震度4でしたが）、とりあえず女房子供を家に戻して出勤することに。家では、被害はいくつか物が落ちた程度でした。

3度目の揺れ（2回目の余震）のときは外にいました。屋外で地震を感じたのは恐らくこのときが初めて。人の家の庭木が大きく揺れているのを見て、そりゃ木だって揺れるわな、と妙に納得しました。考えてみれば地震災害なのに車でバイパス走って大河川渡って出勤というのも変な話ですが、あれを機会に職場でもいろいろ災害対応の細かい見直しが行われているので、その点はよかったのかなと思います。

① 氏 名：川内 三郎

その日（10月23日）は新津市金津の石油地学ハイキングに参加していました。地質に関係する多くの方々との出会いの後で、よもや、その夕方のような地震が発生するとは、全く世の中は何が起るかわかりません。

自宅（新津）で、久しぶりの早めの夕食を家族で取り始めた午後6時前、最初の揺れがきました。揺れはタテとヨコがほぼ同時に来たようです。家族全員とも椅子から立ち上がることはなかったものの、必死になって、体全体に力を入れて身構えていました。最初の揺れがおさまって、私が「新潟地震の揺れよりは小さいようだ。あの時よりは被害は少ないのでは」と話しかけると、家族も声もなしに頷いているようでした。

家の中を点検すると、三階だけは物が落ちたり倒れたりしている状態でしたが、ほかは幸いにもさしたる変化はありませんでした。

その後すぐに大きな揺れが2度あり、これはかなりの被害が出たのではと不安になってきました。テレビ報道では小千谷東部付近が震源ということなので、午後7時前に実家の長岡（成願寺町）に電話をしました。運良く1回で通じましたが、壁が落ちたりかなりの被害ということですし、弟（長岡・高町団地）へは、9時頃に携帯でやっと通じる状況でしたが、これもまた近くの公園に非難していて団地全体が大変ということでした。どちらも長岡東部に位置し、被害の大きい地域の一角です。

翌朝、5時前から東蒲原ほかの工事現場の巡視を済ませて後、救援第1陣の親戚の連絡を受けて、必要な救援物資の追加を新津のスーパーで買い求めました。特に依頼があったものは、ガラスくずを入れるダンボール箱、ガムテープ、雑巾やぼろ布、簡易コンロ、水、紙コップ、紙の皿類などでした。同時に家族総出でおにぎりを大量に準備して、11時頃に家内と車で長岡へ向かいました。

途中、国道8号は早くも応急用レミファルト舗装材を積んだトラックや、給水車がたくさん走っています。本当にご苦労様と申し上げたいのですが、こちらも私用とはいえ身内を案じて運転しているのだ、という複雑な思いでハンドルを握っていました。

バイパスの刈谷田川にかかる橋が通行止めの為か、手前から車が混んできたので、上流の見附市傍所町へ抜けましたが、この辺から路傍の積み石が崩れているのが目に入ります。橋を南下して鹿熊町付近からは、さらに石の崩れが多くなり住宅の窓やガラス戸を応急補修し

ている人々の姿が見られます。車のカーナビにはあちこちに通行止めの表示が出ています。やがて12時半前、一旦長岡東バイパスの新組交差点へ抜けましたが、バイパスまでは地震の影響は特に見受けられませんでした。バイパスにさしかかると、信号は点灯しておらず、通行量はゼロに近く、昼なのに今まで見たことも無い静かな異様な雰囲気でした。

東バイパスの中沢ICから悠久山街道へ抜けた途端、地震の被害が大きく現れてきました。舗装の陥没やクラック、地下マンホールの抜け上がり、電柱の傾き、橋前後の段差、消雪パイプ接続部の突き上げ、倉庫や家屋の傾き等、東へ向かうに従って被害が大きくなる一方です。もうまっすぐには運転できず、車も上下に激しく揺れ、右に左にハンドルを切りながらの徐行運転で、手に汗がまつわりついてきたのを覚えています。それでも所々にカラーコーンや、ロープなどで注意を喚起する措置が多く箇所になされていたのには感心しました。やがて長倉町から高町方向に向かうにつれ、屋外にテントを張り、車に避難している人々が次第に多くなってきました。

順次親戚宅にたどり着く状況にあって、被害の程度は悠久山公園を取り巻く付近、とりわけその南東部ほど被害が大きくなって行く感じがしました。今回、親戚宅の応急整理を手伝いながらも地震災害の苦勞を肌で体感するとともに、明日に備えて物心とも何を用意しておけばよいのか、多くのことを考えさせられました。